

## 第2章

# PDCA サイクルでの実践

Do

# 第2章 PDCA サイクル ～D～

## 第1節 Do を行うに当たって

### 1 キャリア教育の育成する力と教科・領域をつなぐ



キャリア教育の育成する力と教科・領域で育む資質・能力を、どのように考えるとよいですか？

○ キャリア教育と教科・領域をどのようにつなぐとよいかはわかりにくかったので、キャリア教育を教科・領域の単元全体でどのように捉えるとよいかを、表に整理してみました。単元の導入・展開・終末の三段階において、教科・領域で身に付けさせたいスキルと、キャリア教育で身に付けさせたいスキルをそれぞれ整理し、これを授業スタンダードとして中学校区で共有化を図りました。

これにより、小学校でも中学校でも、どの教科・領域においても、単元全体でキャリア教育を考えることができ、みんなで取り組みやすくなりました。

#### キャリア教育を意識した 探究的な学習に向かう学びの型（授業スタンダード）

	プロセス	見通す（課題設定）			実行する			見つける（振り返る）
		問い	目標	計画	情報収集	整理・分析	まとめ・表現	
探究的な学習	身に付けさせたいスキル	想起比較	分類 焦点化	順序立て 見通し	比較 具体化 関連付け 理由・根拠の 明確化	比較 関連付け 分類 多面的・多角的 理由・根拠の 明確化	構造化・一般化 要約 価値付け 発信	評価 変容 改善 適用
キャリア教育	育成する力	身に付けたいスキル						
	<b>見つける力</b> 自己理解能力 自己管理能力	自己の思考や感情を律する 前向きに考える					自分の成長を感じる 目指したい姿をもつ	
	<b>関わる力</b> 人間関係形成能力 社会形成能力	相手を受け止める（認め合う） コミュニケーション 他者に働きかける （助け合い・励まし合い・支え合い・協力）						
	<b>見通す力</b> キャリアプランニング能力	逆算的思考 いつどこで何をどのように 生活や学習と仕事との関連付け 課題（問い）を見付ける			行動と改善		学ぶことの意義や 役割の理解 働くことの意義や 役割の理解 将来設計	
<b>やりぬく力</b> 課題対応能力	計画を見直しながら、自分の力で最後まで解決する							

赤枠・塗りつぶし部分 … 中学校区における重点的な取組

参考文献： 「主体性を育む学びの型」木村明憲（さくら社）  
 「個別最適な学び・協働的な学びの考え方・進め方」加藤浩次（黎明書房）  
 「2040 教育のミライ」磯津政明（実務教育出版）  
 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）」（令和3年3月）（文部科学省）



## 授業の中でキャリア教育をどう考えるとよいですか？

○ **単元導入時**、児童生徒の問いや驚きなどから課題を設定し、学習のゴールに向けてどのように学ぶかの学習計画を立てます。本中学校区では、この学習計画を「**自分の学びを見通す**」ための大切な時間と考えています。

**展開時**、児童生徒は、地域や人から学んだり友達と考えを交流したりして、**自分の考えや学びを広げたり深めたり**します。本中学校区では、この展開時に、「関わる力」と「やりぬく力」を主に設定し取り組んでいます。

**単元終末時**には、振り返りを設定し、児童生徒は、単元全体の「**自分の学びを見つめ**」、学ぶことの意義を考えたり、自分の成長を感じたりする時間と考えています。本中学校区では、振り返ることで、次に目指したい姿がイメージできるので、「見つめる」ことで「見通す」につながると考えています。

	個別の問い・学習内容（時数）	指導・支援の工夫	評価の観点			〇〇する力を付けるために	評価方法
			知	思	態		
導入	(1)	・ 目標を達成できる教材を選択する。 ・ 違和感や憧れを抱く教材との出会わせ方の工夫 (あれ?なんで?~できるようになりたい!)			①	【学習の目的】 【学習計画】	観察法
	(1)	・ 考えを対話（音声言語）で広げ、 多面的・多角的に考える。			①	・ 育成する力を付けるために、どんな 工夫を行ったかを記入する。	
展開	(1)				①		
	(1)				②	【出前授業】 ◇◇会社	
まとめ・振り返り	(1)	・ ゴールは、目的・相手意識があるか？					
	(1) 本時	・ 個々で見つめ直し、文字言語でアウトプットして 考えを深める。			②	【見つめる力】 を評価する。	

## 2 地域・社会と学びをつなぐ



出前授業とは何ですか？

- 児童生徒が教科で学んだ知識及び技能などを、出前授業を取り入れることによって実社会とつなぎ、仕事での活用法を学び、学習の意義を実感できるようにします。また、学校内では体験できない学びを、地域の人材・企業・団体などと連携を図り、体験やインタビュー、話などを出前授業として設定し、児童生徒の学びを広げたり深めたりできるようにします。

このように、学校での学びと実社会とつなげることにより、学ぶことや働くことの意義や役割を理解することにつながると考えます。こうして、学校・保護者・地域・社会と協力して児童生徒を育てることは、児童生徒にとって、社会への関心を高めたり社会との関係を学んだりする機会となり、将来自立した社会人となるための基盤をつくることのできるのではないのでしょうか。



どの教科・領域で出前授業をするとよいですか？

- どの教科・領域においても出前授業は可能ですが、力を育成するに適した単元や教材などがあるため、年間計画を見直して設定することが大切です。また、地域や企業・団体のどこと連携を図り、どのように学びをつなげるかも重要となるので、児童生徒に育成する力と出前授業の目的を共有し、授業で児童生徒にどのように関わるかを事前打ち合わせをする必要があります。

学年ごとに取り組んだ実践の記録を残して共有化を図れば、次年度以降に向けての共有財産となります。また、協力して頂いた企業や団体などにおいても、人材バンク等を作成し、学校の共有財産として残すことが大切です。この共有財産を、学校だけでなく、中学校区や市町全体に広めると、市町全体の共有財産へと価値あるものへ高まるでしょう。

本中学校区で取り組んだ結果、大切だと気付いたことは、児童生徒の学びを、学校だけでなく、地域や企業、団体などを巻き込んで創ることです。社会全体で児童生徒を育てることにより、学習の意義を考えたり、社会の多様な人の考えや生き方や役割に触れて自分を見つめ、自分らしさや自分の生き方について考えたりする機会が増えていくでしょう。



教科の学びの中に、出前授業をどのように取り入れるとよいですか？

○ 出前授業を取り入れる方法には、複数あります。

その一つとして、教科での学びが、実社会や生活のどんな場面でどのように活用されているかを実感できるようにつなぐ方法です。下記のように、算数科の学びを企業と連携を図ることにより、児童生徒は学習の意義を考え、学びを深めていきます。



### **第6学年 算数科「拡大図と縮図」出前授業**

児童が教科で学んだ知識及び技能を実社会とつなぎ、仕事での活用法を学んで、学習の意義を考える。

また、生活科や総合的な学習の時間などにおいて、学校の環境により児童生徒の学習に影響がある場合や、企業の専門的知識を知り学びを深めたい場合など、教科の学びと実社会や生活とのつなぎ方には様々に考えることができます。



### **第1学年 生活科「いきものとなかよし」出前授業**

生き物の生命をテーマに学習を進めるには、生命の温もりを実感できる小動物との触れ合いが必要と考える。そこで、地域や団体の協力を得て、本物の生き物と触れ合い、実感を伴った学びにつなげた。

### **第5学年 総合的な学習の時間「えたじまんを見つけよう」出前授業**

人口減少や知名度の低さ等の江田島市が抱える問題を知り、自分たちに何かできないかと学習を進めた。その中で、マルシェを開催している企業の方に学校に来てもらったり、マルシェに出店する複数事業者に見学に行ったりした。一年間を通してマルシェの企画を学校と共同で行うことで、学びを実社会と結び付けることができた。





## 企業などに依頼するときの留意点がありますか？

- 一番大切なことは、依頼目的を明確にすることです。企業などの受入先にとっては実際に児童生徒とどのように関わればよいのか不安や心配を感じることでしょう。そこで、何のためにこの学習を考えたのか（目的）、本時のゴールは何か（ねらい）を明確にし、そのためにどういう関わりをしてほしいか（お願い）を依頼することが、学びある学習を成功させるカギとなります。

【 小】 児童の学びをつなぐ連携シート 第 1 学年

1 連携を依頼する方

2 依頼希望期日

3 教科

4 出前授業の目的

5 授業のねらい

### 6 学習計画・当日の流れ

次	学習内容（時数）
1	・自分たちの心音を聞き、地域にいる様々な生き物と仲よくなる方法などの学習計画を立てる。(1)
2	・仲よし大作戦スタート！（動物愛護センター） 動物愛護教室で、動物への接し方などを学ぶ。(2)
	(ポークアンドチキン江田島) どんな生き物がいるのかな。 さわりたいな。 どんなことがすきなのかな。(2)
	①生き物のいる小屋を順に見学をさせてもらう。 ②世話や仕事の一部をさせてもらう。 ③子供の質問に答えてもらう。
3	・「なかよしアルバム」を作ろう 気付きを思い出しながら、絵や言葉を付け足して、アルバムを作る。(2)
	・ぼく・わたしのお気に入りをお伝えしよう (1)

### 7 お願い(例文)

- ・子供たちが、考えて生き物に関わる時間をできるだけ多くとっていただきたいので、子供たちから質問されたら答えるような関わりをもっていただきたいです。
- ・子供たちの～（育成する力に関わる部分等）な様子が見られたら、「～することができてよいですね。」のように子供の具体的なよい姿を伝えながら褒めていただきたいです。
- ・生き物の世話を気をつけるとよいことなどを、子供たちに伝えていただきたいです。

出前授業を依頼する地域の人や企業・団体と連携を図るために、連携シートを活用し、児童生徒の学びの目的を明確にして共有化を図りました。

3年目には、さらに「7 お願い(例文)」を付け加えて改善を図ったところ、企業側の児童生徒との関わり方が具体化され、企業側からご好評をいただくことができました。

江田島市では、中学校4校が合同で職場体験活動（キャリア・スタート・ウィーク）を実施することを踏まえ、指定2年目から中学校全校で依頼文を統一し、受け入れ企業へお願いしています。依頼文を統一することにより、「育成する力」が明確になり、「生徒との関わり方や生徒への言葉掛け、活動内容等をどのようにすればよいか」がわかりやすくなった。」との声を、受け入れ企業からいただきました。

職場体験活動体験先事業所の皆様へ

江田島市教育委員会教育長	岡田 學
江田島中学校長	宮本 好章
能美中学校長	田中 祐二
三高中学校長	沖元 成寿
大柿中学校長	八川 慎一

キャリア・スタート・ウィークにおける生徒の資質・能力の育成に向けたお願い

盛夏の候、事業者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本年度も、ご多用の中、本市中学校の職場体験活動についてご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、この度の職場体験活動をより充実したものにするために、事業所の皆様にお願ひがあります。

### 【自己理解能力・自己管理能力の育成】

自分自身はどんな人間で、何ができるのかを考えさせるきっかけにしたいと考えています。そのために、生徒のよいところやできたことなどを見付けて、

- ・「あなたはこんなところがよいね。」
- ・「あなたはこんなことができるんだね。」等

生徒のよいところを見付け、生徒へ伝えていただきたいです。

### 【人間関係形成能力・社会形成能力の育成】

自分の特性を生かし、人と協力して仕事をしていくことの大切さを考えさせるきっかけにしたいと考えています。そのために、

- ・「なぜ、あいさつが大切だと思いますか？」
- ・「人と協力して何かをするために大切なことはどんなことかな？」等

人と協力して物事をやり遂げるために大切にされていること等を話していただきたいです。

### 【課題対応能力の育成】

自ら課題を発見し、工夫して解決する力を身に付けさせたいと考えています。そのために、ある程度、仕事の流れ等をご指導いただいた後で、

- ・「よりきれいに仕上げるためには、どんな工夫をしたらいい？」
- ・「より、効率よくするためには、どんな工夫をしたらいい？」等

生徒が自分で考えて行動できる場面を作っていただきたいです。

### 【キャリアプランニング能力の育成】

将来就職するまでに、どんな力を付けておくべきなのか、そのために、今をどう過ごすか自分で考え、見通しをもって生活させていきたいと考えています。そのために、生徒への仕事内容の説明や生徒とのコミュニケーションの中において、

- ・「この資格は、高校の〇〇科で、〇〇して・・・。」
- ・「学生の頃、将来〇〇しようと思って・・・。」等

お持ちの資格等の取得の方法や、事業者様が、学生時代考えていたことなどを話していただきたいです。

※ お忙しい中、誠に勝手なお願いではありますが、生徒の学習をより効果的なものにするために、ご理解・ご協力いただけると幸いです。宜しくお願い致します。

### 3 カリキュラム・マネジメントで学びをつなぐ



カリキュラム・マネジメントのやり方は、どのようにするとよいですか？

○ キャリア教育は、教育活動全体を通して取り組むものですが、本中学校区においても、取り組む前はキャリア教育の価値が十分理解されず、これまでと同じ取組や実践で終わっていました。

しかし、授業だけでなく教育活動全体をキャリア教育における視点で見直すことが大切だと気づき、これまで教師側から提示していた行事や活動などに、児童生徒の考えを盛り込むことで、児童生徒の主体性が育ち、キャリア教育の価値を感じることができました。

このように、実態を踏まえて育成する力を明確にし、教育活動をキャリア教育の視点で見直すことが大切です。あれもこれもと盛り込んだ年間指導計画ではなく、育成する力を絞り、内容の関連性や系統性を見直して、つながりを考えることにより、確実に取り組むことができるようになります。育成する力を絞って取り組んだとしても、他の育成する力も関連しているため、同時に育成されていきます。



研究を進めていく中で、見直し・修正したこと等があれば教えてください。

○ 研究当初は、研究先進校の取組を参考に、全教科・領域・行事等を、キャリア教育の視点で年間指導計画を立てていました。しかしながら、ただ作成しただけで、常に意識して活用するものにはなりませんでした。

そこで、本校区においては、出前授業を行う授業研究においてのみ、学びのつながりを考えていきました。重点化を図ることにより、内容の関連性や系統性が明確になり、指導者が見通しをもって取り組むことができるようになりました。

労力をかけ過ぎず、実際に使いやすく取り組みやすいものにもすることも大切です。新しい取組は、実際にみんなが使いやすいか、取り組みやすいかどうかを、いつも意識して進めていきたいものです。



(1)切串小学校版

◇ 指導計画												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
各教科	生活科「がっこうのすき」(人) 国語「どうぞよる」(人) 国語「ききたいな、ともだちのはなし」(人)	生活科「がっこうがいすき」(人) 国語「ききたいな、ともだちのはなし」(人)	生活科「きれいにさいてね」(自)	生活科「なつがやってきた」(自) 国語「うみのかくれんぼ」(人) 国語「すきなものはなに?」(人)	生活科「いぎもどわかよし」(自) 国語「知らせいな、見せな」(自)	生活科「いきものなかよし」(自)	生活科「てがみでしらせよう」(自) 国語「じぶんでできるよ」(自、人、キ)	生活科「ふゆのたのしもう」(自)	生活科「もうすぐ2年生」(自、人、キ) 国語「どうぶつ」(自) 国語「すうと、大すきだよ」(自)	国語科「いこ」といって1年生」(自、人、キ)		
道徳	「たのしいがっこう」(キ) 「うまれたてのいのち」(自)	「ゆうたのへんしん」(自) 「ありがとう」(人)	「あどかたづけ」(キ) 「つばめ」(自)	「ぞうんとおともだち」(人) 「どうしてかな」(自)			「おふろばそじ」(キ) 「二わのこり」(人) 「わたしがねえさんよ」(自)	「おかあさんのつくったぼうし」(自)	「あなたってどんな人?」(自)	「花のかんむり」(人) 「ハムスターの赤ちゃん」(自)		
学級活動	「こんな1年生になるぞ」(キ) 「楽しい遠足」(自、人)	「かきわくろう」(自、人)	「プールのやくそく」(自) 「みんなであそぼう」(人)	「1学期がんばった会」(キ) 「もうすぐ夏休み」(キ)	「2学期の係をつくらう」(人)	「2学期の係をつくらう」(人)	「遊びの計画を立てよう」(キ) 「みんなであそぼう」(人)	「2学期がんばった会」(キ) 「もうすぐ冬休み」(キ)	「3学期の係をつくらう」(人)	「新1年生とわくわく会」(人、キ) 「6年生ありがとう会」(人)	「1年生がんばった会」(人、キ) 「もうすぐ2年生」(キ)	
特別活動	「交通安全教室」(自) 「遠足」(人)	「水泳記録会」(自)		「キャリア・パスポート「めざす自分」」			「キャリア・パスポート「ふりまわりと家の目標」」		「キャリア・パスポート「ふりまわりと家の目標」」		「キャリア・パスポート「ふりまわりと家の目標」」	
学校行事・その他		「運動会」(自、人)					「学習発表会」(人)		「持久走大会」(自、人)		「6年生ありがとう会」(自、人)	
地域との連携				「おかげんさん」(キ)			「近ヶ原小学校」(人) 「江田島市」(人) 「調剤薬局センター」(人)			「とんどまつり」(キ) 「切小祭り」(キ)		「きりくふれあい祭り」(キ)

出前授業を考  
える単元と関  
連する教材

出前授業を  
考える単元

出前授業と大きく  
関連する項目

## 4 各教科等における実践例

### (1)切串小学校

#### 生活科(第1学年)における授業実践

教科	生活科
学年	第1学年
単元名	いきものとなかよし ～いきものとなかよくなるう～
単元の目標	○生き物と触れ合い関わる活動を通して、生命の温もりを実感し、生き物への親しみをもち、大切にしようとする事ができる。
キャリア教育として本単元で育成する力	見つける力（自己理解・自己管理能力）
育成する力の具体	❖生き物との関わりを振り返り、生き物への親しみが増したり、生き物への思いが高まったりした自分の気持ちの変容に気付く。
キャリア教育の視点	・地域や団体に協力を得て、学校では体験できない活動を仕組むことは、児童の実感を伴った学びにつながり、学びが生命への畏敬の念にまで発展できる。

単元構想計画（全8時間 本時8／8時間目）※キャリア教育の視点は太字・下線・網掛けをする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①生き物と関わる活動を通して、生き物の温もりを感じ、生き物は自分たちと同じように生命をもち、日々生活していることに気付いている。	①生き物と関わる活動において、生き物の立場に立った関わり方をしている。 ②生き物と触れ合っただけで感じたことや気付いたことを表現している。	①生き物と仲よくなりたいという思いや願いをもって計画を立てている。 ② <b>生き物との関わりを振り返り、生き物への親しみが増したり、生き物への思いが高まったりした自分の気持ちの変容に気付いている。</b>

#### 探究課題（単元を貫く問い）

◎どうやったら生き物と仲よくなれるのかな？

	個別の問い・学習内容（時数）	指導・支援の工夫	評価の観点			見つける力を付けるために	評価方法
			知	思	態		
導入	<p>どんな生き物の心音かな？</p> <p>どうやったら生き物と仲よくなれるのかな？ 仲よし大作戦を考えよう。</p> <p>(1) 自分たちの心音を聞き、地域にいる様々な生き物と仲よくなる方法などの学習計画を立てる。 (1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心音クイズを行うことで、生き物によって心臓の速さや音働きに興味をもたせる。</li> <li>様々な生き物に対しての仲よし度を振り返り、その理由を交流することにより、やってみたいことや学習の目的など今後の方向付けを図る。これを「仲よし大作戦」とする。</li> </ul>			①	【学習の目的】 【学習計画】	観察法

展 開	生き物と仲よくする方法は何だろう？  (1) 仲よし大作戦スタート！ ・動物愛護教室で、動物への接し方を学ぶ。 (2)	・事前にアレルギー調査を行い、保護者に許可を求めておく。また、動物愛護教室や校内とも事前に連携を図り、アレルギー発症についての防止対策や発症時・発症後の対応について話し合っておく。	①	①	【出前授業】 県動物愛護センター	観察法
	「仲よしアルバム」を作ろう。  (2) 気付きを思い出しながら、絵や言葉を付け足して、アルバムを作る。 (1)	・一枚に一つの気付きを書くように伝える。  ・みんなで一つのアルバムを作ることで、ワークシートを類型化し、共通点から動物ごとの特徴に気付かせる。	②			観察法 ワークシート 絵日記
	生き物は、どんなことが好きなのかな？ どんなものを食べているのかな？  (3) 地域の「ポーク&チキン江田島」で飼育している動物への接し方を学ぶ。 (2)	・事前に、連携シートにて、育成する力や学習の目的、連携事項などの打ち合わせを行っておく。  ・個の気付きや行動を全体に広めて共感したり多様な考えを引き出したりして気付きを深めさせる。	①	①	【出前授業】 ポーク&チキン	観察法
	「仲よしアルバム」を作る  (4) 気付きを思い出しながら、絵や言葉を付け足して、アルバムを作る。 (1)	・一枚に一つの気付きを書くように伝える。  ・みんなで一つのアルバムを作ることで、ワークシートを類型化し、共通点から動物ごとの特徴に気付かせる。	②			観察法 ワークシート 絵日記
ま と め ・ 振 り 返 り	自分が成長したことは何かな？  (1) ぼく・わたしの「とっておき」を伝える。 (1) 本時	・単元導入時の生き物への仲よし度を活用し、学習前後の変容を振り返られるようにする。	②		【見つめる力】 を評価する。	観察法 振り返り

### いきものとなかよし

～こんな なかよしを めざそう～

<input type="checkbox"/> がわかる！	<input type="checkbox"/> ができた！	<input type="checkbox"/> せいちょうした！
・えさ ・からだのこと ・せわのしかた ・とくいなこと	・あそぶ ・なつかせる ・ざわる	・きんちようしない ・こわくなくなる

単元導入時に子供たちが考えた仲よしの基準。これを学習の目的とし、学習を進めた。



出前授業で、直接生き物と触れ合うことにより、生き物の温もりや特徴に気付き、生き物の気持ちや生命を実感することができた。

本時の展開

(1)目標(育成する力)

本時の目標	【学】○「ぼく・わたしのとっておきの☆☆」を伝え合うことを通して、生き物に親しみをもち、生き物を大切にしようとする事ができる。 (見つめる力)
-------	----------------------------------------------------------------------------

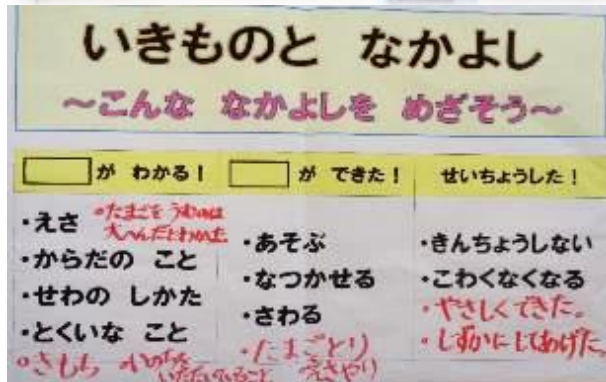
(2)本時の授業過程

	学習活動	指導上の留意点(◇)	評価規準(○)と(評価方法)
導入 2分	1 めあてと学習の進め方を確認する。	◇学習計画の掲示物を使って、本時の学習内容と進め方を確認する。	
	めあて ぼく・わたしのとっておきの☆☆をつたえて、まなびをふりかえろう。		
展開 20分	2 自分が選んだとっておきの☆☆を発表する。  ・動物愛護センター ・ポーク&チキン 江田島	◇友達の発表後には、質問や感想などを伝え合う。 ◇教師は、とっておきの理由を聞いたり、活動中のエピソードから全体に広めたり個に再確認して自覚させたりしたいことなどを引き出したりする。 ◇単元導入時に考えた目指したい仲よしの基準が増えたかを振り返る。	
終末 23分	3 学びの振り返りをする。	◇単元導入に書いたアンケートを振り返り、自分の成長を、学習の前後で比べて書くことができるようにする。また、その理由も書くように言葉掛けをする。 ◇時間があれば、児童に自分の学びを発表させる。	(キャリア教育の視点) 【学-②】 ○生き物との関わりを振り返り、生き物への親しみが増したり、生き物への思いが高まったりした自分の気持ちの変容に気付いている。 (観察法・振り返り)



本時の授業風景

仲よしアルバム



学習後に児童が追加した仲よし

授業ワークシートから見取った、育成する力に係る児童の成長の様子

1 はじめ「OOとなかよし」

いぬ				にわとり・ひよこ				うま			
とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない	とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない	とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない
	○						○		○		

☆めあて☆

◎まなびから、じぶんのせいちょうをかんじよう。

2 おわり「OOとなかよし」

いぬ				にわとり・ひよこ				うま			
とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない	とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない	とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない
◎				○				◎			

ふりかえり（せいちょうしたこと）

にわとりとうまにさわれるようになった。気持ちがちよとわかるようになった。いぬも、はじめては、こわくてえさをあげられなかったけど、えさをあげることができました。

児童の振り返りシート

生き物の気持ちがわかるようになったコツを尋ねると、児童は「目を見たらわかる。」と答えた。

児童の振り返りシート

生き物と仲よしになった根拠を尋ねると、学習前の自分と比較し、自分ができるようになった成長ぶりを実感していた。

1 はじめ「OOとなかよし」

いぬ				にわとり・ひよこ				うま			
とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない	とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない	とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない
	○						○		○		

☆めあて☆

◎まなびから、じぶんのせいちょうをかんじよう。

2 おわり「OOとなかよし」

いぬ				にわとり・ひよこ				うま			
とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない	とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない	とてもなかよし	まあまあなかよし	あまりなかよくない	ぜんぜんなかよくない
◎				◎				◎			

ふりかえり（せいちょうしたこと）

あたしは、どうぶつとなかよしになりました。どうぶつのはたらきや、こころがわかるようになりました。はじめは、こわくてえさをあげられなかったけど、えさをあげることができました。

## (2) 江田島小学校

社会科(第4学年)における授業実践

教科	社会科
学年	第4学年
単元名	郷土の伝統・文化と先人たち～宇品港の築港 千田 貞暁～
単元の目標	○ 県内の先人の働きについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、表現することを通して、地域の発展に尽くした先人は、さまざまな苦心や努力により生活の向上に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習の問題を追究・解決しようとする態度を養う。
キャリア教育として本単元で育成する力	見通す力（キャリア・プランニング能力）
育成する力の具体	❖ 学習計画を立て、主体的に学習を進めることができる。

キャリア教育においても、大事な部分になります！

### 教科の評価基準

#### 主体的に学習に取り組む態度

○ 県内の伝統や文化、先人の働きについて、①主体的に問題解決しようとしたり、②よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。



### キャリア教育の視点(見通す力)

- ① 単元導入時、問いを言語化することによって、問いがもっている意味を理解し、問いを調べる方法や問いの順序を整理する。整理された問いは学習計画となり、主体的な問題解決につながる。
- ② 広島港湾整備事務所による出前授業を取り入れることで、港と社会生活とのつながりに実感をもち、よりよい社会について考える。



身の回りのほとんどのものは船で運ばれているんだね！



実際に港に行って、港の大切さを実感しました。

問いを分類して、学習課題をつくりました。

学習課題から学習計画を立てることで、学びを見通すことができました。



広島港湾整備局のみなさんに、学習したことをプレゼン形式で発表しました。

班ごとに講評をもらうことで、学びを価値付けてもらいました。

### 学習指導計画（本時1時間目／全13時間）

※○「評定に用いる評価」、●「学習改善につなげる評価」とする。

次	学習内容（時数）	評価の観点			付けたい 資質・能力	評価方法
		知	思	態		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔と今の宇品港の地図を見比べて、気付いたことを話し合い、なぜ千田貞暁は宇品港を築港したのか予想を立てる。</li> <li>人々の願いと地形の特徴を基に、問いを考える。学習問題を基に学習計画を立てる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【本時】（2）</p>			●	【見通す力】	行動観察 ジャム ボード
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>千田貞暁は、どのようにして、宇品港を築港しようとしたのか年表やイラストを基に調べ人物年表にまとめる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（2）</p>	●				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇品港築港の際、海苔・牡蠣・アサリの養殖に携わる住民達の反対運動があったことについてリーフレットや年表を基に調べ、人物年表にまとめる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（2）</p>	●				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害や漏水、労費、資材の値上がりや、人材不足に悩まされながらも、貞暁は私財を投入して宇品港を完成させたことを年表や写真を基に調べ、人物年表にまとめる。</li> <li>人々の生活の変化を調べ、年表にまとめる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（2）</p>	○	○			行動観察 ワーク シート
	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島港湾整備局の方に、インタビューをする。</li> <li>実際に港に行き、港の役割を知る。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（2）</p>			○		行動観察 ワーク シート
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>千田貞暁の事業について振り返り、学習したことをまとめ、発表する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（3）</p>			○	【見通す力】	振り返り 発表

※第2次の学習計画は、グループごとに子供たちが作成する。

### 本時の展開

#### （1）本時の指導過程

学習活動	指導上の留意点（◇）	評価規準（○）と（評価方法）
導入 5分	1 築港前の宇品の地図と、築港後の宇品の地図を比較し、なぜ陸地が増えたのか予想を立てる。	◇誰が何のために陸地を増やしたのだろうという興味をもたせる。 ◇学級の子供たちにとって生活の中で宇品港が欠かせないこと、広島を養育する働きをしていることを示すことで、宇品港のありがたさを感じさせ、学びに興味をもたせる。